



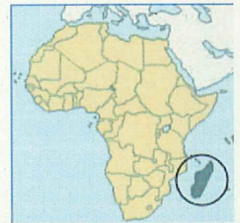
Inona ny vaovao?

イヌナ ニ バオバオ？
何か良いことあった？

マダガスカル 青年海外協力隊 通信 第13号 (2018/11/19) 福長 輝倅

今回のテーマ;マダガスカルのお盆、ファマディアナ！衝撃の家族愛！

福長 輝倅 (FUKUNAGA TERUYUKI)	マダガスカルってどんなところ？
隊次：2017年度2次隊 活動国：マダガスカル 赴任地：アンズズルベ (首都から約3時間) 職種：コミュニティ開発 前職：教師(非常勤/社会科) 出身：岡山県・岡山市	公用語：マダガスカル語・フランス語 人口：約2500万人(日本の6分の1ほど) 国土：587,000km ² (日本より大きい！) 首都：アンタナナリボ 宗教：キリスト教及び伝統宗教、 少数派イスラム教 民族：約18部族



① ファマディアナってなんだ？ -マダガスカルのお盆-

ファマディアナというのは、マダガスカル「お盆」、つまり亡くなった人を大切にする日です！ 何をするかというと、主には

- ① 親族で集まってパーティー！ ② お墓から遺体を出して、布を取り換える！ ③ 遺体と一緒にダンス！



② ファマディアナのやりかた - 久しぶりに家族に会える幸せ -

では、ファマディアナがどのように行われるのか、ご覧ください！



① とにかく踊りまくる、遺影と一緒に

お墓に行く前には、集まった親族でまずはダンス。びっくりするのは、布を取り換える死体の人の写真(遺影)をもって踊ること！日本でこんなことやったら絶対怒られる。しかし！楽しく故人を思い出すのもいいことかもしれないですね！

② みんなで、豚や鳥、などごちそうをいただきます

ファマディアナを行う前に腹ごしらえ。久しぶりにあった親族と豚肉や鶏肉など豪華な昼食を。ただし、男性は食事の前からビールや地酒をかなり飲んで楽しい気分になっていました。「郷に入っては郷に従え」僕も、しっかりお酒を頂きました。これは勉強です。



③親族で大行進！ ファマディアナは遺体の布を取り換える、つまりお墓へ行きます！そのため、村からみんなで大行進！道を占拠し車は通行できなくなっていました。この写真は、一つの親族のみ、多いゆゑ。

④若者も参加 日本のお盆は僕も含め若い人はあまり積極的ではないイメージ。しかし、マダガスカルファマディアナは若い人がたくさんいました。単純に、いいなあと思います。

⑤お墓はキリスト教？ お墓につくと遺体を取り出します。お墓をよく見てみると、十字架のマーク。そう！キリスト教ですね。しかし、ファマディアナはマダガスカルの土着の文化。文化は混ざるものですね。



⑥布を巻いた後、必ず名前を書こう！ 取り出した遺体の布をきれいな布に取り換えます！すると事件が。なんと、誰の遺体か分からなくなりました。みんなで遺体の服と骨をよく見ながら誰の親族かチェック。わかった後には、誰かわかるように布ごとに名前を書いていました。名前はずっと大事ですね。

⑦頭の上と空中をわっしょい 遺体の布を変え、名前を書くと、再びお祭りスタート。頭の上や空中で遺体をわっしょいわっしょい。みんなとても楽しそうです。ただ、さすがに頭や空中にわっしょいするのはびっくりします。この写真の先頭の人なんか、頭にのせているだけ。すごい。

⑧最後はみんなで記念撮影 遺体をお墓に戻す前に、親族が集まって記念撮影。中には涙を流して喜んでいる人もいました。数年に一度、亡くなった親族と出会って、若い人も一緒に写真を撮る。いろんな意見はあるでしょうが、僕はこの文化がとても好きになりました。

③ 学校もお金を稼ごう！ - 浴衣と料理の販売 -

マダガスカルの多くの学校では、教科書や机などが足りません。そこで、学校のお金を作るために日本祭りを行いました！何をしたかというと、①野菜ケーキの販売、②野菜スープの販売、③浴衣を着て写真の撮影、です。とにかく売るために、子供たちと一緒に呼び込みを行う、移動販売を行う、販売場所を変えるなどヘトヘトでした。一日中働いた結果、収益は日本円で 2000 円ほど。稼ぐのは難しいと改めて感じました。ただ、「稼ぐためにはどうするか」という視点を学校ももってくれたことがよかった点だったと思います。

